

EDUPEDIA と考える『アクティブ・ラーニング』

1. 文部科学省から学ぶ『アクティブ・ラーニング』の定義

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。(文部科学省 用語集)

2. EDUPEDIA から学ぶ『アクティブ・ラーニング』とは

今から記す2つの発言のどちらのほうが生徒は能動的に学べるでしょうか。

- ① 今日は人間の体の仕組みについて話します。よく聞いてくださいね。
- ② 今日は人間の体の仕組みにすいて話します。よく聞いて、先生が説明したあとに隣の人にお互いわかりやすく説明してあげてください。

この違いがアクティブ・ラーニングと直結します。②では、生徒に自ら学習することを促しています。このようなちょっとした工夫で生徒は能動的に学習することが可能となるのです。

3. EDUPEDIA に掲載されているアクティブ・ラーニング関連の主な記事

ここでは、EDUPEDIA に掲載されている主な記事を紹介합니다。この他にも EDUPEDIA にはアクティブ・ラーニングに関する記事がありますので、「アクティブ・ラーニング」でサイト内検索をして、ぜひご覧ください。また、防災教育とも関わる記事もありますので簡単に紹介します。

◆アクティブ・ラーニング入門

アクティブ・ラーニングとは、どのような学びなのでしょう。アクティブ・ラーニングの具体的な技法などアクティブ・ラーニングにおける基本的な内容がまとめられています。

【すぐにできるアクティブ・ラーニングの技法(その1)】

児童生徒の能動的な学びを引き出すために、最初にすべきこと。それは、導入で、本時のねらいを適切に示すことです。この「適切に」という意味は、単に「～を学ぼう」ではなく、目的、プロセス、手法、ゴールを、丁寧に示すということを意味しています。

◆大学入試改革と小中学校への影響（鈴木寛文部科学省補佐官）

「大学入試改革」「高校基礎学力テスト導入」による教育現場や子どもたちへの影響について、文部科学大臣補佐官の鈴木寛氏にインタビューしたものです。入試改革にあたっての教育現場の変化として、アクティブ・ラーニングなどが今まで以上に重視されるということがあげられています。

【今後求められる、理想とされる教師像とは？】

ある意味で教師にとって、21世紀型教育は自己否定につながる事かもしれません。なぜならば、教師は20世紀の暗記型学力の勝者であるからです。21世紀型の教育(アクティブ・ラーニング等)を行なうために、自らも、より学びつづける姿勢が必要となります。

◆プリント1枚で防災教育シリーズ「災害時の判断とコミュニケーションについて考えよう」

防災教育の難しさは「正答のない問い」があることです。そのなかで大切なことは、子供たちに「行動する」意味を伝えることです。ここではそれらをアクティブ・ラーニングを通じてどう学ばせるかがまとめられています。

4. 今後の EDUPEDIA とアクティブ・ラーニング

EDUPEDIA に掲載されているアクティブ・ラーニングの実践情報はまだまだ多くはありません。また、教員の方々の中にも、アクティブ・ラーニングだと意識せずに授業で展開している方も多くいると思います。今後は、アクティブ・ラーニングについての認識を深め、アクティブ・ラーニングの実践情報をより多く発信し続けていきたいと思ひます。また、EDUPEDIA ではご自身で記事を執筆することも出来すし、実践情報を頂ければ EDUPEDIA 編集部が記事を作成します。ご協力のほど宜しくお願ひ致します。